



たった一人のためにでも、世界をつなげたい。

CWS JAPAN

Church World Service

NEWSLETTER No. 41

2019年台風15号・19号支援活動報告

昨年9月9日に発生した台風15号に続き、関東地方を縦断した台風19号によって千葉県南房総地域は甚大な被害を受けました。台風15号発生直後、応急処置として、自衛隊や消防隊員によって被災家屋の屋根にブルーシートがかけられたものの、その後発生した19号によってシートは剥がされ、続く21号による大雨によって、被災家屋では雨漏りが始まりました。

私達が支援に入った千葉県南房総地域は短期間にこれらの三重苦に襲われたのです。ところが、10月末、まだ数多くの被災者宅が復旧できていない中、館山市社会福祉協議会（社協）は、災害ボランティアセンター閉鎖を決め、その上、同市では災害ゴミの仮処分場も閉鎖したことにより、多くの被災者、特に高齢者や要援護者が生活再建できないまま支援から取りこぼされるという事態になりました。そこで、CWS Japanは同じく米国に本部を置く国際NGOオペレーション・ブッシング・ジャパンとの協働により、10月末から2カ月間、被害が大きかった館山市の社協を通して支援の手が及ばなかった被災者宅への支援を行いました。受益者世帯の多くは、高齢者であり、自らの手で、敷地内の倒木を処理することも、天井に広がったカビの除去を行うことも困難になっていました。この間、CWS Japanが事務局を務めるエキキュメニカルなネットワーク（ACTジャパン・フォーラム）を通して集まったボランティアも人海戦術に参加し、延べ179人のボランティアによって計107件の被災世帯を支援することができました。（次ページに続く）

（支援に入った被災者宅の前で日本福音ルーテル教会派遣ボランティアと）



2020年2月発行

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、ご理解をいただき、ありがとうございます。

Facebook
twitter
instagramでも
情報発信しています！

最後のページを
ご確認ください☐

特定非営利活動法人CWS Japan

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館25号室



public@cwsjapan.jp



03-6457-6840

またさらに、地元NPO（おせっ会、安房文化遺産フォーラム）への支援を通して屋根の修繕・応急処置も行うことができ、私達のような外部支援者が去った後もこうした地元のパートナーNPO、教会関係者が引き続き支援活動を引き継ぐことになったことは大きな成果です。なお、おせっ会を通しての被災者支援（ブルーシート張替え等）は3月まで続きます。

CWS Japanでは、次の災害に備え、この度の災害支援経験から得られた教訓を基に、各地における支援ネットワーク構築と支援の手が及びにくい災害要支援者を対象としたプログラム作りをパートナー団体との連携の下で行っています。

（文：ディレクター 牧 由希子）

パキスタンにて天皇誕生日祝賀レセプションへ参加しました！

2月20日にイスラマバードにて行われた天皇誕生日祝賀レセプションへCWS Japanも参加しました。祝賀レセプションは在パキスタン日本国大使館が開催しているもので、日系企業やJICA・NGOなどがパキスタンでの活動を紹介するブースを設け、CWS Japanも昨年から実施している「パキスタン、シンド州干ばつ等対応防災力向上事業」の紹介ブースを設けました。

祝賀レセプションには在イスラマバードの各国大使館の方々を始めとして、総勢約700名が集まりました。CWS Japanのブースにもたくさんの方が足を運んで下さり、松本邦紀在パキスタン日本国大使からも「パキスタンは農業国家なので、干ばつ対策を宜しくお願いします」と力強いお言葉を頂戴致しました。

CWS Japanの防災事業をたくさんの方々に紹介する機会を頂いた、在パキスタン日本国大使館へ厚く御礼申し上げます。

パキスタンの干ばつでは500万人以上が被災していると言われており、緊急支援のみならず中長期的な干ばつ対策が急務です。当事業の2年次を始めるにあたり、パキスタンの更なる防災力向上を目指して取り組んでまいります。

（文：事務局長 小美野 剛）



（事業紹介ブースにて、松本大使に対し説明をしている場面）

インドネシア・中部スラウェシ州地震被災者に対する戸別トイレの設置及び衛生促進事業

昨年末からはじまったインドネシア・中部スラウェシ州地震被災者に対する戸別トイレの設置及び衛生促進事業ですが、現地では事業に関する裨益者及び関係ステークホルダーに向けた事前説明（オープニング・ワークショップ）やトイレ建設に際して技能労働者に対する技術研修が進められ、いよいよ、裨益者による参加型のトイレ建設作業が始まっています。

当事業はキャッシュ支援を織り込みながら実施しています。トイレの建設資材の調達には、CWS職員の監督のもと、配布された現金をもとに裨益者によって行われます。キャッシュ支援のメリットは、主に次の3点があると考えています。



（建設中のトイレの前で裨益者とその子どもの一枚）



(対象地域の村長と女性メンバーで構成されたワーキンググループとCWS職員の集合写真)

(1) 事業の効率性：

裨益者によって現地コミュニティ内で資材調達が行われることで、支援者側が資材調達を担うことで発生しうる時間のロス（適切なタイミングで資材が届かず建設が始められない等）に事前に対処することができ、建設工程が計画通りに進むことが期待できます。

(2) 裨益者による強いオーナーシップの醸成と高い満足感：

配布された現金をもとに、許容範囲内で裨益者の好みに合わせて資材の選択が可能となることで、成果物に対する愛着やオーナーシップが醸成されます。また、このように資材調達といった建設の初期段階から事業に参画し、意見を反映し、選択することができることで成果物に対する満足度が非常に高くなる傾向があることが過去の事例でわかっています。

(3) 地元経済への裨益：

支援者側がまとめて一定の資材を一度に発注する場合、外部の大きな業者を選択せざるを得ませんが、裨益者自身が個別に資材を調達する際は、現地の小売店でそれらを購入することになります。このように、現地コミュニティにお金落ちることで、地元経済の復興延いては発展に繋がるといえます。この点は被災地の早期復興においても重要な要素となります。

ただし、これらの効果は、事前の市場調査やコミュニティ及び関係者との信頼関係のもと、キャッシュ配布における手順、役割、責任、リスク管理の仕組みを明確に規定し、裨益者に分かりやすく、アクセスしやすいキャッシュ給付の工程を計画することで期待できるものです。また、実行の段階では適切なタイミングでの確認作業と綿密なコミュニケーションをとることが支援の質の向上のために重要です。

当事業によって、多くの世帯が常にアクセス可能で安全と尊厳を保つことができるトイレの利用ができるよう、引き続き活動していきます。

※当事業はジャパン・プラットフォーム（JPF）の助成金によって実施しています。

(文：プロジェクト・オフィサー
西澤紫乃)

**当団体HPでもお知らせしておりますが、
新型コロナウイルス感染拡大防止への対応策の実施に伴い、事務局へのお問い合わせはメールにて承っています。**

[詳細はクリック](#)



CWSJapan



@Japan_CWS



cws_japan

日々の活動や事業の詳細や支援先の様子などを写真(ときどき動画)でお伝えしています！